



施設園芸・植物工場展
Greenhouse Horticulture & Plant Factory Exhibition / Conference

NEWS

発行元
GPEC NEWS編集室
〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル アテックス(株)内
TEL:03-3503-7703 FAX:03-3503-7620
E-mail:ofc@gpec.jp

盛況な勢いを維持 出展申し込み期限迫る



本年1月の大寒波。大雪をもたらし、補強や修繕、除雪作業などの対応に追われた生産者も多い。燃油価格の高騰も重なり、生産者の経営を圧迫しそうだ。収入保険やセーフティネットなど、生産者を救うための制度は複数存在するが、今後は生産者自身が将来を見据えた対策を施すことも重要といえる。

そこで、**高強度を誇るパイプのハウス部材、除雪機や木質バイオマスなどの燃油に代わるエネルギーを用いた冷暖房設備**などに注目が集まる。ある鋼管製造加工業者は「耐久性実験を行うなど製品の特徴を直に知ってもらいたい」と、初出展の方針を固めた。ある暖房設備メーカー役員は「これまで付き合っていない地域の生産者に提案したい」と、出展に前向きで、展示規模を調整中だ。

高機能製品をアピール

日本施設園芸協会が主催する施設園芸植物工場展（GPEC）が7月11日（水）から13日（金）まで3日間、東京ビッグサイトにおいて開催される。出展申し込み期限を前に、多くの企業団体から出展申込みや出展に関する問合せが続々と寄せられ、過去最大となった前回は上回る規模での開催が予想される。

2年に1度のビジネスチャンス

最強寒波・大雪、燃油価格高騰、担い手不足……課題解決につながる提案を

前回のGPECには3日間でのべ4万名超が来場。関東東海圏の生産者を中心に、出展者との交流が行われた。2年に1度のGPECに来場する生産者は、様々な課題に対する解決策やヒントを掴もうと各社の展示を熱心に視察する。今回も多数の新製品・技術が、さまざまな企業から出展される。

省力化を支える最先端技術

一方、就農者数の減少問題は、年々深刻さを増している。昨年の就農人口は18.1万人（農林水産省発表）と、なかなか減少に歯止めがかからないことから、機器・資材メーカーには省人・省力化につながる設備・機器の開発・提案が求められている。

目下、アシストスーツをはじめ作業の軽労化につながる機器・資材は、他業界で実用化が進み、今後は農業者への普及も期待されている。今後はさらに、**播種機や収穫機などの自動化機器**に関心が集まる。

来場者数目標は42千人 期待の声 日増しに高まる

GPECは今回で第5回目を迎える。生産者の間でも浸透したことから、「また新しい製品や情報を集めたい」との声がリピート来場者から聞かれる。

種苗や農薬、ハウス資材などの具体的な展示物に加え、**軽労化や気象対策**といったキーワードに関するものを見たいといったリクエストもある。さらに、アメリカや韓国などから「日本の植物工場技術に関心がある」との問合せも事務局に寄せられており、国境を越えた情報・技術交流が行われそうだ。

新規出展から常連まで多彩な顔ぶれ

今回のGPECには、すでに150社近くの企業・団体が前向きに出展を検討、あるいは申込みを済ませ、展示に向けた準備を進めている。前回からさらに増小間する企業のほか、久々にGPECに出展する企業、そして初参加の出展者など、本年も多彩な顔ぶれとなりそうだ。

カネコ種苗は展示規模を拡張し、施設園芸・植物工場における種・苗・肥料・プラントなどの総合提案を行うと意気込む。4年ぶりの出展となるニッポーは、パソコンを使わずに設定できるハウスの環境制御盤を提案する。常連組のサンポリ、スナオ電気、セムコーポレーションなども、加温装置やかん水装置、肥料管理機など、新製品を軒並み紹介する。



初出展の申込み相次ぐ

「前回のGPECを見学し、他の展示会より来場者数が多く、商談が活発と感じた」「顧客や他社から、生産者の来場が多いのでGPECがいいと薦められた」など、初出展する企業の担当者たちは本展に期待をこめる。

すでに初出展を決めたイリテック・プラスは半自動洗浄フィルターや液肥混入機を、エフピコチューーパは青果物用のパックやフィルム。オンガエンジニアリングはハウスの自動開閉装置を、空調服は熱中症対策のウェア。ボッシュはハウス向けセンサーとAIを活用した病害予測システム。みのる産業は高所作業台車・電動収穫台車を、それぞれGPECでは初めて展示する。中国や韓国企業からも申込みがあり、総じて30社超の企業が初出展する見込み。

出展申し込み期限は2月28日（水）

事務局には連日、出展申込みや問合せが大量に届いている。4月中旬には出展者説明会が開かれ、会場レイアウトなどが発表される。事務局では「出展検討中の方は裏面のアンケートフォームまで至急連絡していただきたい」としている。

出展に関する資料請求や詳細のお問い合わせ

GPEC事務局

〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル4階
アテックス(株)内
TEL:03-3503-7703
FAX:03-3503-7620
www.gpec.jp E-mail:ofc@gpec.jp

注目

流通・加工ゾーン

フードバリューチェーンの構築を促進
農産物の貯蔵・加工から流通までを網羅

農産物の貯蔵や加工、さらに流通に関わる出展者が集まるゾーンとして設置されている「流通・加工ゾーン」。

海外展開の観点からも生産から流通までの効率化が求められ、農産物を生産地から消費者までつなぐ「フードバリューチェーン」の構築は、今後の日本の農業発展を支える重要なポイントだ。一方で、食の安全・安心への意識、ライフスタイルの変化など社会的要因からも、農産物の鮮度を保持したまま流通させることはもと

より、加工して流通させることへの需要も高まっている。

本ゾーンでは、これらを支える集出荷施設、予冷・貯蔵施設、

加工施設・プロセスセンターや物流センター向けの設備・資機材・サービスなどを集め、フードバリューチェーンの構築を促進する。関心のある方は左記事事務局まで。



Smart Agri

スマートアグリ・ソリューション

発行元
スマートアグリ・ソリューション NEWS編集室
〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル アテックス(株)内
TEL:03-3503-7703 FAX:03-3503-7620
E-mail:ofc@smagri.jp

NEWS

スマートアグリが一堂に集結する展示会

スマートアグリソリューションが本年7月11日(水)から13日(金)、東京ビッグサイトでGPECと同時開催されることが決まった。主催はスマートアグリコンソーシアム。日本施設園芸協会が共催する。

農業のスマート化に注目が集まる昨今、本展は広く、全農業分野におけるスマート農業の発展をめざし、多彩な展示やセミナー等を通じ、業界の垣根を越えた情報発信、交流の場を提供する。

要素技術から最終製品まで

スマート農業の未来を創る

農業のスマート化を実現する技術

無人運転の研究が進んでいるトラクター。昨年4基が打ち上げられた準天頂衛星のシステムを駆使して、高精度な位置情報を把握、cm単位で正確に耕すことができるよう実験が各地で行われている。

空にはドローンが、農薬散布や生育状況の調査・把握のために高性能カメラを積んで飛ぶ。法整備が急ピッチで進められ、低価格化や操作の簡易性が実現できれば、多くの個人生産者も利用できる日は近い。

また、これまで農業と無縁だったビッグデータやAIなどの技術も、その距離を極端に縮めている。熟練した農家の栽培ノウハウを集積することで、若手生産者や海外留学生の利用・学習に役立てようとの動きも目立ってきている。

広範囲に及ぶ出展製品

昨今、ICTやIoT、AIなどの先端技術、ドローンやロボットなど機械化・自動化技術を活用したスマート農業の研究・開発が進んでいる。そして、農業に携わる人にとって生産性向上をめざす今後は「栽培支援」にとどまらず、「販売支援」「経営支援」などのソリューションや、無人運転などの「精密農業」への期待が高まる。

このような状況を踏まえ、本展は各種センサー・チップやカメラといった機器、ドローンやロボットなどの装置・技術のほか、それらを用いたソリューションまで、スマート農業を構成するさまざまな技術・製品を募集する。



サプライヤーからエンドユーザーまで

全国の農家が来場対象

本展の来場ターゲットは、スマートアグリに関わる全ての人が対象。生産性向上を求める農家・農業法人はもちろん、ユーザーに届けるべく知見を広げたいベンダー。さらに、よりよいシステムの構築をめざすメーカーや大学・研究機関など。同時開催のGPECからも、ICTなど先端技術に関心をもつ生産者、メーカーが多数来場し、相乗効果が期待できる。

また、本展は露地・水稲・果樹などのあらゆる農業生産者がターゲット。エンドユーザーに向けた製品紹介・説明による導入先の獲得はもちろんのこと、製品に関する意見・感想のヒアリング、ユーザーの課題・ニーズ調査を行うことで、製品の改良や新システム開発のヒント発見に

開発から普及までの課題を解決

開発が進む一方で、生産者間での普及が進むためには、操作の簡易性や低価格化の実現など、多くの課題が残されている。

本展は、スマート農業に関わる各種技術・装置を展示するとともに、栽培・生産・経営・流通システムのさらなる高度化につながる情報を発信する。本展を通じて、新技術・装置の開発・普及を目指す農業機器メーカー・ベンダーおよび農業生産者・関係者との交流を図っていく。

主催者は「この展示会をきっかけに広く日本の農業界にスマート化の意志が波及し、精度の向上や普及に繋がることを期待する。一社でも多く参加してほしい」と語っている。

出展申込み期限は3月30日(金)。詳細希望の方は事務局まで。



つながる。

「開発中の製品に搭載できる、高性能なカメラを探したい」「農家に説明・提案できる最新システムを学びたい」「周辺農家と協力して、作業の機械化を進めるために知見を広げたい」といった、本展に対する期待の声も高まっている。

出展にご興味のある方は、こちらのアンケートにご回答ください

●関心のある展示会

☐ GPEC ☐ スマートアグリ・ソリューション

●出展について

☐ 出展を検討する

☐ 来場したい

☐ 資料がほしい

☐ 詳細を知りたい

(後日、事務局よりご連絡します)

どのような出展物をご覧になりたいですか？

■記入者連絡先

会社名

部署・役職

氏名

TEL

E-mail

〒

所在地

FAX:03-3503-7620